

松下道臣句集

ましまる

遠吠や

霧の深部に

霧生まれ

のびやかな表現にひそむ

骨太な人生観、

継続することによって

いよいよ自由になる

言葉。

歳月の風韻を

ここにとどめる

清新な第一句集

春の牛眠たいホルン内蔵す

葉桜に真綿のやうな風が吹く

冬霧の奥の枯木のひとり歩き

空蟬の掴みし草の伸びにけり

一月や波より低く海鵜とぶ

安息日なる紅梅の多すぎて

潜望鏡として一本のつくしんぼ

夕立の端より砂の煙立つ

空蟬の鳴く日のありぬ父の死語

瞬きをして送火の消えにけり

土筆摘むときにも生まれ力瘤

女学生降りてたちまち梅雨のバス

四万六千日亀の出られぬ洗面器

硝子風鈴男が買ひて女が持つ

アイスクリン愉しき嘘を吐く舌に

夕あきつ力の抜けし肩へ来る

水鳥の翔つ敗蓮を動かさず

冬大河水の動かぬ処あり

紅梅の方が不幸に見えてくる

臣下など居らぬ雛を飾りけり

蠅
叩
き
民
芸
店
に
あ
り
に
け
り

女
郎
蜘蛛
旧
街
道
に
糸
張
れ
り

水
中
に
隙
間
の
あ
り
て
鮎
走
る

蛇
遣
ひ
蛇
の
襟
首
つ
か
み
け
り

手
間
取
り
て
を
り
し
小
便
初
嵐

大
顔
の
家
系
な
り
け
り
つ
く
ね
い
も

虫時雨闇を大きくしてをりぬ

川千鳥去り難きまで石積まれ

宇宙飛行士でめぐり返る寒卵

枯はちす見し両肩を上げ下げす

句集 まんまる

平成十七年 六月三十日発行

私家版

著者 松 下 道 臣

印刷所 株 さんゆう社印刷

〒三三二-1355-22

茨城県行方郡玉造町甲二六四-16